

新型コロナウイルスのPCR検査で、鹿児島大学大学院理工学研究所の隅田泰生教授(63)が糖鎖生物化学のチームが開発した検査キットが10日、保険適用された。唾液を検体に用い、検査時間を大幅に短縮できるのが特徴。急患受け入れ時などの迅速診断に役立つ。



隅田泰生教授

唾液で検査 迅速診断へ

鹿大PCR 保険適用

同日までに、従来のPCR検査に加え19件が保険適用となった。同教授らが開発した検査キットは、ごく微細なものを扱う技術「糖鎖ナノ粒子法」を用いてウイルスを抽出する。従来法で約1時間かかる抽出工程を約3分でできる。抽出した遺伝子を増幅する工程も、隅田教授らが開発した装置を使うと20分以内でできるとい

う。従来法の検査に要する時間は計約6時間だった。同教授が代表を務めるベンチャー企業「スディックスバイオテック」(鹿児島市)が製造し、検査機関に販売する。すでに1千人分のキットがあり、1万人分の原料を確保しているという。隅田教授は「短時間で検査できるので、検査数も増える。第2波に備えてコロナとインフルエンザを同時に検査する方法も確立したい」と話している。

「糖鎖ナノ粒子法」を用いてウイルスを抽出する。従来法で約1時間かかる抽出工程を約3分でできる。抽出した遺伝子を増幅する工程も、隅田教授らが開発した装置を使うと20分以内でできるとい

(園田尚志)